

新型コロナウイルス感染症 Q&A ⑤

(浜松医科大学 堀井俊伸教授に聞きました。)

2020年12月15日現在

11月に入ると感染者数が全国的に再び急増する事態へと展開しました。今夏の第二波と呼ばれた頃と状況が異なるのは、過去最多の感染者数を更新していること、年齢層の偏りがなくなっていること、そして、利用できる病床がひっ迫するほど重症者ならびに死亡者の増加が目立っているところです。12月9日には旭川市内の医療機関で、15日からは大阪市の重症センターでもついに最終手段ともいわれる自衛官の災害派遣が始まりました。深刻な看護師不足に陥っている地域も増え、医療崩壊の恐れが現実になりつつある状況のなか、インパクトのある政策の発出もなく年末年始を迎えようとしています。

<Q8 ご家庭での感染予防法について>

家庭内感染が心配されるなか、家庭内での感染予防法について教えてください。

A : 年末年始に新たに気をつけなければならぬのは、それまで寝食をともにしていなかった人（以下、来訪者）との過ごし方です。冒頭でも述べましたように、現在、新型コロナウイルス感染症 2019 (COVID-19) のパンデミックが始まって以来最も感染リスクが高まった状況にあります。来訪者には、来訪前2週間の健康観察に加え、感染リスクのある行動（会食やマスクなしで行う集団活動）を避けてもらうことにより、子どもの感染リスクを低減させることができます。感染リスクが払拭できない来訪者には、来訪を延期してもらうか、来訪するのであれば滞在期間をできる限り短くし、飲食をともにせず、いわゆる新しい生活様式を守って過ごしてもらうようにします。もちろん、子ども自身も日頃の同居者も、感染リスクのある場所（外食の場など）での感染リスクをともなう行動がもとで SARS-コロナウイルス-2 を家庭内に持ち込むことがないよう、感染予防を緩めてはならないことはいうまでもありません。ご家庭内で、ぜひ、年末年始の過ごし方について話し合う機会を持たれることをお勧めします。

<Q9 発熱した子どもの受診について>

COVID-19 が流行するなか、今後はインフルエンザの流行も心配されます。発熱があった子どもに対して、医療機関への受診のタイミングをどのように説明したらよいでしょうか？

A：受診のタイミングを考えるうえで、いつから症状があるのかの情報が役立ちます。ここでも健康観察カードなどに記入された健康状態の記録が活用できます。身近な人のなかにすでに診断がついている人がいるかどうかも参考になる情報です。タイミングとしては、目的とする検査で陽性となる病期に受診するのがよいでしょう。一般的に、SARS-コロナウイルス-2 は、遺伝子（PCR）検査では病初期から検出されますが、抗原検出キットの利用では検出可能となるのが発症後 3 日目以降と遅れます。インフルエンザウイルスは、発症日に検査すると検出されない可能性があります。受診にあたっては、あらかじめ医療機関に連絡してから出かけることも併せてご説明ください。発症してから何日目にあたるかを医療機関に伝え、検査のタイミングも含めて相談するとよいでしょう。